

# きんたろう倶楽部通信

6号

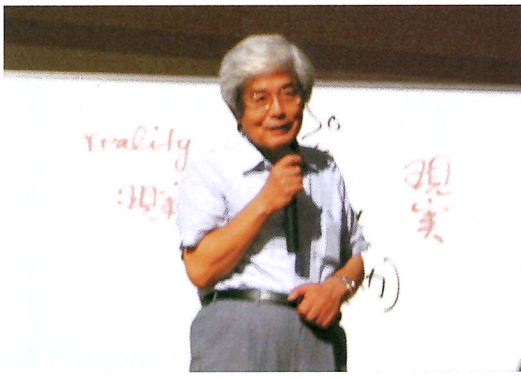
2009年2月20日発行  
きんたろう倶楽部事務局  
〒930-0151 富山市古沢254番地  
富山市ファミリーパーク内  
TEL&FAX: 076-434-1316  
URL: http://kintaroclub.net  
E-mail: info@kintaroclub.net

2006年4月23日  
きんたろう倶楽部結成  
2009年2月の会員数: 784名

人びとが暮らすために必要な森づくり。子どもたちがのびのび育つために必要な森づくり。  
それにはあなたの力が必要です。自然の恵み豊かな富山の里山を、いっしょに創りませんか。

## 第一回シンポジウムが九月十五日、 カナルパークホテルにて開催され、 市民四百八十人が参加しました。

環境問題は、係わりのない人は全然関心を持たない、日常関係ないからと思っておられる方も多いでしょう。なぜ、そのように現実をとらえるのかということに長年思っていました。それで「バカの壁」に私は妙な式を書きました。「A=B」という式です。「x」は脳みそに対する入力です。「y」は出力で、出力って何かという行動です。ここに「B」という関数が係わっています。これにはプラスマイナスがあつて、「B」がプラスだと「好きだ」、「B」がマイナスだと「嫌いだ」。例えば向こうから人が来ると目から入力



されて、頭の中で「借金取りだ」と判断すると逃げて、「恋人だ」となると近寄ってきます。判断によって「B」が大きくなったり小さくなったりします。行動も、一

### 基調講演

## 「なぜ、人間の脳は 環境破壊の脅威に 鈍感なのか？」

東京大学名誉教授  
きんたろう倶楽部名誉会長

養老 孟司



気にならない。これを私は、そこにあるはずの木や草はその人の現実ではないと定義します。私は虫が好きなので、虫が歩いていると足が止まります。しかし、普通の方は足を止めないでしょう。このように、その人の生活、動きを変えない場合には現実として捉えていないといえるのです。  
もつと言えば、いくら知識を得てもその人の行動に影響しない時は無駄な知識といえます。環境は

本を読むなり話を聞くなりして考えるところまでが勉強で、ここから先は勉強じゃないと思つています。これで今の現代社会は非常にまずいことになつているなと思つています。  
例えば都会に住んでみると、同じ堅さの平らな地面をひたすら歩きます。あれって脳みそから言うところ、全く怠けている。ホンダが作った二本足で歩く機械は、200億円で買ったコンピュータソフトが入っています。では、皆さん歩くために200億円かけていますか？ そんなはずありません。すでに立派なソフトが入っているのです。申し上げたいのは、その立派なソフトをどの程度改良なさつたかということなんです。どんなコンピュータだつてどんどんソフトを新しくします。ところが今の人はほとんど同じ堅さの所しか歩きません。段差があると階段を作り、駅ではエスカレーターです。どうしてそこまで頭を使いたくないのでしょうか。ボランテアとか、どんどんやられた方が頭のためにはとても有効だと思われれます。

方は逃げる、一方は近寄るといふことになります。  
その中で、一番の問題は、「A=B」と計測してしまうことです。好きでも嫌いでもない、一切出力がないのです。街の中に土地があつて、草や木が生えていると皆さん「空き地」と呼ぶでしょう。そこに何も無いということなんです。だけど、鳥が来てトンボが飛んでモグラがいるかもしれません。しかし、家を建てる時にそういうものを一切

かなりそれに近づいていまして、「環境は大切ですね」って必ずおっしゃるのだけど、「A=B」に近い人が非常に多いのではないかなと思つています。  
人間の脳が外に出せるものは、身体の動きだけです。しかし多くの方がそう思つていません。お母さん方は「そんなに野球ばかりしてないで勉強をしなさい！」って怒つています。実は身体を動かすことは一番頭を使うのですけど、

今、私たちは人間の感覚を無視してしまつているのだと思つます。だから環境破壊にも気がつきにくくなつてくるのです。それを回復するには自然の中に出るのが一番いい。自然は非常に多様で、多様というところは違いを見ていろいろ感じられるのです。自然は対象として同じことが絶対に起こりませんから。



# 森と人シンポジウム

〔シンポジスト〕

- 東京大学名誉教授 きんたろう倶楽部名誉会長 養老 孟司氏
- 自然体験やまびこの郷「夢創塾」塾長 長崎 喜一氏
- 富山市長 森 雅志氏
- 富山大学学長 きんたろう倶楽部会長 西頭 徳三氏
- 廣川奈美子氏

〔司会〕

**司会者** 呉羽の森について森市長にお話を聞いてみたいと思います。里山が近く感じられた時代に、少年時代をお過ごしになったと思うのですが、いかがでしょうか。

森市長

私は今も呉羽丘陵の梨畑の中に住んでいて、子供の頃は近所の仲間と秘密基地を作ったり、ワラビやグミを採って食べたり、まさに遊び場でした。

呉羽山は神通川の方から行くと、急にそり立っています。その結果、都心部に近い所にあの素晴らしい呉羽山丘陵が残ったと思っています。特に城山界隈やファミリパークの辺りは街から歩いて行ける距離です。日曜日はたくさんの方が山を歩いていらっしゃるわけです。遊歩道が整備されていますし、ほとんどゴミも落ちていません。手頃な里山が近い所にあるのは大変意味があることだと思っていますので、これからも大切にしていきたいと思っています。

司会者

ありがとうございます。長崎さんは、そういったことを改めて体験できる施設をおつくりになつていらつしやるようですが、そのきっかけは。

長崎氏

柵田の雑木林を15年ほど前に開いて、そこにある杉、土、水を使って子供の遊び場になる手作りの小屋を造っています。5年前から森に道をつけて、人も、風も、情報も入るだろうと、こんなことをやりました。

道づくりで切った雑木は炭にします。大きな杉は水車にして、炭を粉にして畑に返します。子供たちに循環のシステムを遊びながら体験してもらいます。森にアスレチックを作りました。平地ではできない遊びも取り入れました。アスレチックの段差は全くランダムで、滑ったり転んだりして、情報処理して次の行動へ移る。子供は来ることに大人になるし、大人は子供にかえって、一緒に遊んでいけるのです。森の中で木の温もりをみつけて、森の大切さを子供



たちと一緒に体験させてもらっているということ。

司会者

ありがとうございます。養老先生、そもそも森で遊ぶ、森を楽しむというのはどういう脳の働きのなるのでしょうか。

## 森に暮らすことが根っこにある

養老氏

もともと、アフリカが乾いていった時に、森から降りざるを得なかった猿が人間になったと言われてます。ですから森に懐かしさを持っているんだけど、生活はサバナの乾燥した所で暮らすという癖が一方についているわけです。

「ドングリと文明」という本を興味深く読んだのですが、ドングリ

森の分布を見ますと、非常に綺麗に温帯を覆っています。日本ではそういう土地に依存していた文化を縄文文化と言っていますが、同様の文化は世界の温帯にあったのではないかと。カシを切っても根を掘らなければとても生きていけません。燃料が維持できません。ドングリの実は美味しくないですが非常に腹持ちが良いです。実は、ラオスで酒のつまみに野生の栗を食べました。面倒だし、たいして美味しくないのに、気がついたらどんぶりいっぱい食べているのです。僕は、ああいう食物が元来食べていた物じゃないかと思いました。東京でイベリコ豚なんて流行っている豚ですが、おそらく、その歴史は非常に古いです。

皆さん意識しないで伝統を継いでおられるんじゃないか。要するに根っこにあるということですね。森に暮らすということはね。

司会者

森の文化がDNAを通して引き継がれている部分もあるということですが、富山平野の水、また森と水との係わりというものについて西頭会長お聞かせいただけますか。

## 高度差4,000m 命の循環

西頭氏

富山ならではの研究ということ

森市長

呉羽丘陵にはいろんな施設がある

割は大変大きく、ありがたいと思っています。

司会者

里山は学びの場でもあるようです。次世代の育成という意味ではないかがでしょうか。

## 子供の感覚に戻れ

西頭氏

きんたろう倶楽部は非常に多様な活動をしています。子供たちや人間発達科学部の学生たちも参加しています。里山の活性化において、倶楽部の果たしている役割を高く評価したいと思っています。ただやはりボランティアであるということ、継続性については、工夫する必要があると思っています。先ほどの養老先生の話は、自分の身体、出力を訓練して子供の感覚に戻れというふうに取り組んでいるわけですが、大学生も含めて自然に学びながら体験してほしいと思っています。

司会者

人づくりと言っても、率先して楽しんでいただくのが一番いいと思うのですが、長崎さん、人を動かすのは難しいことですね。

長崎氏

まさに子供たちと一緒にのことで、自分が感動することを指導

者にもやっていただいております。その中で10人いれば1人か2人残ればいいかなと思っています。だいたいボランティアは3年くらいで誰もいなくなります。それを継続する時どうするか。例えば、一緒に行者にんにくを植えて、「来年、また植えて来てくだはれ」と言うのと、つられて5〜6人来るのです。こういうことで何となく人をつないでおるわけです。

今、子供たちと間伐をやっておりませんが、理屈ばかりではあかんが、私たちは一生忘れないと思います。同時に大人を子供に戻して楽しませることによって、後継者とは言わないまでも、仲間ができるのではないかなと思っています。

## 人間が楽をするとうまくいかない

養老氏

20世紀は、現在の社会が当たり前になつていった時代で、それを支えたのは石油だと思っています。1901年にテキサスで石油が噴出して、ちよど産業革命とも一致しました。21世紀は、たぶん10年以内に石油のピークアウトが来るだろうと言われています。

日本海のカイ釣りももうできないと言っていました。今後はそれが当たり前になると思います。安い物を大量に運ぶことも不利になってくる。そうすると地元を生かすことが、当たり前になつてくると思つています。それは何も暗い社会が来るわけじゃない。ここにおられる皆さん元気い

いでしょ。石油にやらせたら人は楽ですけど、どんどん楽になつたら皆さん何をやるんですか。寝ているのもいいですけども、それは生きていくということにならないでしょう。

要するに問題の完全な背景はエネルギー問題、代替エネルギーを使っても同じことだということです。炭酸ガス問題にしろ、環境問題にしろ、エネルギーを使って人間が楽をする、結局うまくいかないということが、ここ100年で分かったはずだと言いたいです。

司会者

森から得られるものが体験であり、また最終的に、私たちは森によって生きていくという社会になつていくのかもしれない、今体感させていたいただきました。

長崎氏

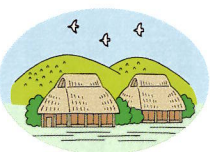
私のところは全く石油から離れておりません。ご飯を炊きたければ山から木を取ってきて燃料にすればいい。物は何もないからこそ、身に付くかなと思います。もし石油がなくなつても、都会で地震があつたとしても、その材木で火も作れると、こういうところで生活体験をさせて、子供たちをワンステップずつ上げさ



わけですが、本当は整備しないという手もあると思います。ただ現状は東側の斜面は孟宗竹がひどくて、きんたろう倶楽部の皆さんに頑張ってもらって、ずいぶん明るくなりました。グミの群生地など、そういうものも回復していくような手入れは必要だと思っています。

一方では車で近くまで行きたい人たちも確かにいるわけで、どこにどの程度の手を入れていくか議論する必要があります。市の計画としてはビジターセンターを作り、呉羽丘陵へ歩いて入ってもらう取っ掛かりを造ろうとしております。

また、ファミリパークの機能や側面の力、水準を上げていきたいと思つています。きんたろう倶楽部の皆さんに果たしていただいている役





### 3年目を迎えた きんたろう倶楽部と 協働によるキャンパス整備

富山国際大学環境サークル  
代表 黒崎 英亮

10月4日の土曜日、富山国際大学の環境サークルのメンバーを中心に今年で3回目となる大学キャンパスの森林整備を行いました。昨年は、キャンパス内に自生する竹林や広葉樹林を整備して見本林となる庭造りを行いました。今回の作業は、第2駐車場に群生する雑木林の整備を計画しました。夏休み中に、きんたろう倶楽部の事務局の方と作業内容や準備する道具、手順など、事前の打ち合わせをしました。

当日はまずまずの晴天にめぐまれ、大学の教職員、学生が20数名ときんたろう倶楽部の会員、地元の住民の方々とたくさんの方が集まってく



また、作業をしていると不法投棄されたたぐさんのゴミも出てきました。参加している学生の中にはマナーを考えているものもいたので、マナーを考えるいい機会にもなったと思います。作業後は仲間の女子学生たちが作ってくれた味噌汁を食べながら、参加した人たちとおしゃべりしたり、ほぐちの疲れを感じながら無事終わりました。

この3年間、環境サークルときんたろう倶楽部の協働によって、大学のキャンパスを中心として整備活動を進めてきました。これからは、め



ぐまれた自然環境の中にある大学として、この周辺にも活動の輪を広げていきたいと思います。そのためには、学生自身の活動のあり方をもう少し模索する必要があるかもしれません。いずれにしても活動に参加してくださった皆さんに感謝します。

### 天湖森ボランティア 活動を終えて

楡原中学校二年  
水上 久和

ぼくは、このボランティア活動に「駅伝などでお世話になっていて天湖森に感謝の気持ちを込めて」という思いでとりかかりました。

まず、ぼくたちの班は、道となる場所のジャマな木を整理しました。重い木、形の変な木など、いろいろありましたが、一生懸命はこびました。そしたら、その場所はとてもきれいになってびっくりしました。うれしかったです。



次にぼくたちは、道と階段づくりをしました。ぼくは、やれませんでした。が、くいを木づちで打っている班員の人たちはとてもかっこよかったです。ぼくは、他の人と、道の整備をしていました。そこにあつたら危なそうなる木を切ったり、落ち葉を整理したりしました。そうやって、みんなで協力してつくった階段や道は、とてもすばらしいものになり、感動しました。

この活動を終えたみんなの顔は、やり遂げたという感動に満ちていました。とてもいい活動だったので、またやりたいと思います。協力してくださったきんたろう倶楽部のみなさんにも感謝したいと思います。



### 2008年10月25日 「企業の森づくり」活動

(株)国際電気セミコンダクターサービス  
富山事業所 池上 信一

当社では、全社の環境目的・目標として「ステークホルダーとの環境協働」を掲げ、私たち富山事業所では「地球市民活動」の一環として企業の森づくり活動を行っています。06年10月にとやまの森づくりサポーターセンターに企業登録し、私たちの事務所近くの八尾中核工業団地内の里山再生を活動する事にしました。しかし素人ゆえ何をどうしてよいか分かりません。とやまの森づくりサポーターセンター、富山県農林振興センターそしてきんたろう倶楽部の皆さんにご支援、ご指導いただきながら



ら遊休地の植林準備として下草刈りや植林予定地に繋がる里山の遊歩道整備から取り組み、そして08年10月25日に植林活動までたどり着くことができました。前日までの雨も止み清々しい晴天の元、当日は私たちのグループ会社である国際電気テクノサービス(株)のメンバー合わせ約60名で、植林用の稚樹の採取、苗畑作り、遊歩道整備を行いました。苗木は近くの里山から木の苗を約100本採取しました。この稚樹の選定・採取もきんたろう倶楽部事務局の関原さんにお世話いただきました。昨年整備した遊歩道も更に延長、また谷に下る足場の悪いところに階段も設置して、よりこの里山に入りやすい環境が整いました。また作業の合間には富山県農林振興センターの近堂指導員より里山の実態や今後の課題についてレクチャーいただき、森づくりのプラスの側面についての認識を新たにすることができました。今後も皆様のお力添えをいただき「官・民・企業一体の環境協働」により、地域に根付いた環境貢献活動を展開していきたいと思えます。今後とも宜しくお願い致します。

### 森林再生、みんなで植樹

富山市立光陽小学校  
廣野 佑樹



宿泊学習の二日目、朝食をとってから、ころりんの森で植樹活動を行いました。五年生の総合的な学習で環境問題について考えてきたけれど、



森がないと、  
ぼくたち困ります。

私たちは  
森づくりを応援します。

越中から、日本の中心から情報発信。  
北日本新聞

地球環境貢献活動を応援する  
三井物産環境基金

デジタル印刷&マルチメディア  
とうざわ印刷工業(株)  
本社 〒930-0008 富山市神通本町1丁目8-13 TEL (076) 432-3267(代)

### 活動カレンダー

- 4・19 国有防風保安林整備(竹除伐と粉砕処理)稲代(大沢野)
- 4・20 とやまの森づくりボランティア交流会(富岡市伏木宮)
- 4・26 第6回貝羽丘陵竹林整備(公園緑地課)
- 5・18 竹林整備(竹伐採及び粉砕処理と竹細工教室)呉羽丘陵(西金屋)
- 6・1 里山林整備(竹除伐と森林療法体験)婦中町大瀬谷
- 6・8 里山林整備(下刈りと刈払機操作講習会)山田ふれあい森林公園
- 6・15 公園周辺環境整備(下刈り)小羽清水記念公園(大沢野)
- 6・15 飛越源流の森づくり(1)(源流散策)飛騨市古川町畦畑
- 6・28 緑地整備(下刈りと刈払機操作講習会)八尾中核工業団地緑地
- 6・28 育苗管理(草刈り、草取り)吉作
- 7・5 竹林整備(除伐と安全講習会)9 チップ操作)婦中ふるさと自然公園
- 7・13 植樹地下刈り(保育作業)大道水源涵養保安林(八尾町室牧)
- 7・23 竹堆肥1回目切返し(ファミリパーク第3駐車場)
- 8・6 竹堆肥2回目切返し(ファミリパーク第3駐車場)
- 8・29 竹堆肥3回目切返し(ファミリパーク第3駐車場)
- 8・30 悠久の森・流しソーマンとクラフト教室(ファミリパークムカナルパーク富山)
- 9・15 きんたろう倶楽部シンポジウム(カナルパーク富山)
- 9・21 とやまの森づくりボランティアの集い(黒部市阿古屋野地区)
- 9・26 竹堆肥4回目切返し(ファミリパーク第3駐車場)
- 10・4 里山林整備(除伐と下刈り)富山国際大学(福沢東黒牧)
- 10・10 里山林整備(除伐と下刈り)細入割山森林公園、楡原中学校
- 10 会員交流・美林視察(京都・声生の森、福井・小浜・1泊2日)
- 10・19 飛越源流の森づくり(1)(飛騨市、高山市)
- 10・25 緑地整備(除伐、稚樹採取及び苗畑作り、遊歩道整備)八尾中核工業団地緑地
- 10・28 森の里親(植樹)山田ふれあい森林公園、光陽小学校
- 11・7 森の里親(苗畑作り)吉作園緑地課)
- 11・8 第7回貝羽丘陵竹林整備(公園緑地課)
- 11・8 飛越連携森づくり(植樹と散策)飛騨市古川町黒内
- 11・15 里山林整備(植樹)山田ふれあい森林公園
- 12・5 平成20年度活動慰労会(活動参加者)メンテナンス(鯛家)
- 1・31 第4回森づくり講座(モウソウチクの基礎とその利活用について)県中央植物園園長 内村悦三氏
- 3・14 第5回森づくり講座(雪国の豊かな自然・富山の自然と植生の特徴)県森林研究所 研究員 長谷川幹夫氏





省エネ活動以外に自分で取り組んだことがなかったので、楽しみにしていました。

植樹する樹はたくさん種類がありました。ほくは栗の木を植えました。早く大きくなつたらいいなと思いました。また来る機会があったらぜひ見てみたいと思います。

## 緑化活動をして

富山市立光陽小学校

岡野 仁美

宿泊学習のとき、緑化活動でころりんの森に苗木を植えました。初めて苗木植えをしましたが、きんたろう倶楽部の方に手伝ってもらって、五年生全員がうまく苗木を植えることができました。その結果、何もなかった森に約百五十本の苗木が植えられました。

今、総合の学習の中で、環境について学習しています。木は二酸化炭素をすって、酸素を作り出す働きを持っています。木を植えると、二酸

化炭素の量が減るので、環境にとっても良いです。

今回の宿泊学習で、いろいろ手伝ってくださり、きんたろう倶楽部の方々には、とても感謝しています。ありがとうございます。木を植えることはあまりできないけれど、他にも簡単に取り組めるエコ活動はたくさんあるので、地球温暖化防止につながるように、エコ活動を続けていきます。

## 森をよみがえらせる

富山市立光陽小学校

今江陽奈子

ころりんの森へ行って、きんたろう倶楽部の人たちと植樹活動をしました。

「十年後、あの樹たちはどうなっているのかな?」と、想像しながら植えました。木を植えると環境にいいので、がんばりました。土を掘り進めていくと、だんだん掘りやすくなってきました。

五年後、十年後、ころりんの森を訪れてどうなっているのか見守っていききたいと思います。

## 「KORORINの森」 里山林整備(植樹)と 芋煮会

三井物産(株)北陸支店

業務室長 川井 中

11月15日(土)、山田ふれあい森林

公園KORORINの森での植樹活動に、法支店長夫妻を始め、当社北陸支店の職員・家族、社友、関係会社職員・家族の総勢16名で参加させて頂きました。

事前に、苗木は、15mに育つており掘り出すのは結構な作業になると伺っていたので、覚悟を決めて臨みました。実際2メートル以上に育っている苗木も多くあり、又、一人数本のノルマに一瞬たじろぐ場面もありましたが、各班長が手馴れておられ、適確な指示の下、作業は順調に進みました。

驚いたのは、植える時の効率を考え、掘り出した苗木の根の枝部分を大胆に切り落としてしまうことでした。「大丈夫、幹から生える枝と同様、新しい根が生えてきて、養分を吸収してくれる」と言われ、安心して大胆な根枝打ちを見習いました。

成長した苗木を植えるために、多少深めの穴を掘る必要があり、地面にスコップを入れると結構石も多く、大きな石を避けたり取り除いたりで一苦労でした。植える位置・間隔は適当で、それで良いのかと疑問を持ちました。が、「冬の間、雪風で倒れたり押しつぶされたりして、全部が順調に育つわけではないから」と言われ納得しました。

使用された肥料は、きんたろう倶楽部が竹林整備で伐採した竹材を、当社環境基金助成で購入したチップパーシユレッター機で粉碎し、数度の「切返し」を行い堆肥化した自前のものとの

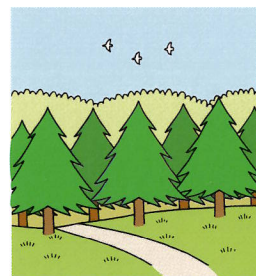
こと。当社も、森づくりに僅かながらでも貢献できたかなと感じた次第です。

先日、黄砂に関するシンポジウムに参加して、発生源となっている大陸の砂漠地帯で、砂漠化防止の為に植林が一行に行われたところ、地下水枯渇の原因になってしまったという話を聞きました。一旦枯れた森を復活するのは容易ではありません。幸い日本では、砂漠化しているような森林地域も植林で地下水が枯渇化したなどの話はありませんが、森を守るという意味では、荒れることも同じだと思えます。「森と人との元気の循環」をいつまでも大切に守り、いつか、又、私達の植えた木々が成長し森になったところを見てみたいと思っています。



## 人が木を

育てれば、やがて木になる。



## 編集後記

昨年末の活動慰労会にたくさんのご参加ありがとうございました。今年度も作業やイベントが数多くありましたが、活動熱心な会員の皆さまのお陰で、怪我や事故もなく無事終えることが出来ました。心から感謝申し上げます。

年2回発行予定の会報誌が今回のみになりましたことをお詫び致します。

私自身お世話になってまだ日が浅いのですが、この頃あるがままを感じることで、これが自然の豊かさかな……と意識する気持ちになっていきます。今後とも応援よろしくお願致します。

(事務局 吉山)